

4. 成人期への移行と家族研究 「同居」戦略と階層差 岩上真珠 (明星大学)
5. ライフコース分析を通してみた成人期への移行の歴史的变化
全国家族調査データの分析結果から 安藤由美 (琉球大学)
6. 夫婦の家事労働時間の規定要因分析 社会生活基本調査の個票データを用いて
松田茂樹・鈴木征 (株ライフデザイン研究所)
7. 配偶関係別自殺率の分析 石原明子・清水新二 (国立精神神経センター)
(守泉理恵記)

日本環境経済・政策学会2001年大会

「環境保全と企業経営」という統一テーマの下で、環境経済・政策学会(会長:佐和隆光・京都大学教授)の2001年大会(実行委員長:佐和隆光・京都大学教授,事務局長:植田和弘・京都大学教授)が2001年9月29日(土)~9月30日(日)の2日間にわたって京都市の国立京都国際会館で開かれた。今回は事実上の第6回の研究大会であり、初日の午前から2日目の午前にかけて16種類のテーマで27のセッションが行われたほか、「自由論題セッション」2つと「英語セッション」が行われた。また、「地球環境保全のための国際研究ネットワークの構築と展望」、「環境経営評価の現状と課題:内部評価と外部評価の接点を求めて」といった共催セッションやロシア連邦ドゥマ環境問題委員会副委員長による特別講演「ロシアにおける地球温暖化対策の現状と日本への期待」が開催されるとともに、2日目午後には朝日新聞社後援による市民シンポジウム「環境経営の革新-新産業革命とナチュラル・キャピタリズム」も開催された。

学会の性格上、人口に間接的に関連する報告は少なくなかったが、より直接的に関係するものは以下の4報告のみであった。

セッションF-1 「環境政策・制度の評価・比較(その1)」

座長:寺西俊一(一橋大学), 討論者:仲上健一(立命館アジア太平洋大学), 黒川哲志(帝塚大学)

- 6 人間開発と都市環境の役割:研究動向の展望と評価枠組み
野上裕生(日本貿易振興会アジア経済研究所)

セッションE-2 「アジア及び途上国の環境問題(その2)」

座長:松下和夫(地球環境戦略研究機関), 討論者:永田 信(東京大学), 森 晶寿(滋賀大学)

- 1 フィリピン都市における移動と健康リスク
小島 宏(国立社会保障・人口問題研究所)
- 4 フィリピン大都市における移動者と非移動者の行動パターンと交通手段の分析
阿部 彩(国立社会保障・人口問題研究所)

セッションE-3 「アジア及び途上国の環境問題(その3)」

座長:淡路剛久(立教大学), 討論者:李志東(長岡技術科学大学), 山下彰一(広島大学)

- 1 アジア・太平洋地域における都市環境改善戦略指標構築に関する研究
常杪・Shobhakar DHAKAL(地球環境戦略研究機関)/井村秀文(名古屋大学)

なお、2002年大会は9月28日(土)~29日(日)に北海道大学で行われることになっている。

第24回国際人口学会大会

国際人口学会 (International Union for the Scientific Study of Population) は、4年毎に大会 (General Population Conference) を開催する。その第24回大会が2001年8月19～24日にブラジルのバイア州サルヴァドールで開催された。最終的な参加者は1,300人を超えたとのことだが、事前に登録を済ませていた参加者のリスト (843人) を見ると、居住国で最も多いのは米国 (184人) で、開催国ブラジル (140人) を上回る参加登録があった。地理的な条件からか、南北アメリカからの参加登録者 (417人) で半数近くを占める。次いでヨーロッパからの参加登録が目立ち (223人)、国別ではフランス (66人)、イギリス (39人)、イタリア (23人) から多く参加している。やはり地理的な条件のためか、アジアからの参加登録は101人で、前回の北京大会の682人 (うち中国から555人) から大きく減少した。日本からの参加者も、前回24人に対し今回は6人である。アフリカからの参加登録は77人、オセアニアから24人だった。

この大会では、88の専門部会が行われた。これは前回の北京大会の66部会を大きく上回り、野心的なプログラム編成だったと言える。多すぎるのでここにタイトルを示すことは避けるが、プログラムはブラジル大会のサイト (<http://www.iussp.org/Brazil2001/>) に掲載されている。やはり目立つのは出生・家族計画や死亡・健康に関する部会である。もちろん分布・移動、結婚・家族、経済、環境、歴史等に関する部会もそれぞれ複数個あり、人口学教育や人口学のソフトウェアに関する部会も開かれるなど、内容は多彩であった。

小会場で複数の部会が同時進行する専門部会に加え、夕方には大会場で論争セッション (または科学政策セッション) が開かれた。それらのタイトルは以下の通りである。

- D1. Did Cairo miss the mark?
- D2. Are there limits to the human life span?
- SP1. Science Policy session: Population and sustainable development
- D3. Is below replacement fertility here to stay?
- D4. Should borders be open?

論争セッションではまず、タイトルにある問題提起に対し賛成派・反対派2名ずつのパネリストが講演を行い、次いで意見のある参加者が賛成・反対のマイクの前に並んで交互に主張を述べ合うという形式だった。上記のように人口学研究者の間で関心が高い論点について適切な問題提起がなされており、賛成派・反対派が拮抗した活発な議論が行われた。

会員総会では学会本部がリエージュ (ベルギー) からパリ (フランス) に移ったことが報告されたが、次回大会は4年後にそのフランスで開催される。 (鈴木 透記)

国際統計協会第53回大会

最古の国際学会の一つと言われる国際統計協会 (International Statistical Institute, ISI) 第53回大会が2001年8月22～29日に韓国ソウル特別市の会議・展示センター (COEX) で開催された。プログラム